

# 共同礼拝

2023年5月14日(日) 午前10時30分

午後3時

司式 牧師 高橋和人

前 奏

招 詞 ヨハネによる福音書4章23節

讃 詠 546

主の祈り

聖 書

詩 編 37編30, 31節 (旧870)

使徒言行録 1章12～26節 (新213)

祈 禱

使徒信条

役員(長老) 任職式

讃 美 歌 6

説 教 「十二人の使徒」 牧師 姜 涇米

祈 禱

讃 美 歌 502 (1, 2)

献 金

頌 栄 539

祝 禱

後 奏

起立が困難な時は着席のまま礼拝します。

## 5月の祈り

ペンテコステの恵みを覚えて、聖霊の導きにより、困難な中にも信仰が力づけられ、慰めが与えられ、終わりの時の希望を持つ教会としての歩みを果たすことができるように。

戦火のもと、苦しみと不安の中にある人々に主のみ手が伸べられ、癒しと慰めが与えられるように。犠牲者が減らされ、平和がもたらされるように。教会学校、幼稚園の子どもたちが守られるように。

東京教区の諸教会を覚えて。

## 今日の祈り

聖霊に導かれて礼拝が力づけられ、主の栄光が現わされるように。

この世の矛盾と歪みの中で、迷いや不安を負っている人々が福音に導かれるように。

戦火が止み平和がもたらされるように。憎しみを乗り越え、安心して暮らせるように。

「十二人の使徒」 姜 涇米

使徒言行録 1章 12～26節

12節以下に語られているのは、主イエスの約束と昇天を受けて、聖霊が降ることを待っている弟子たちの姿です。弟子たちはどのようにして聖霊を待っていたのでしょうか。

主イエスの昇天を目撃した人々は家の二階の部屋に集まって、「心を合わせて熱心に祈っていた」のです。聖霊を待つためには、「エルサレムを離れず」にすることが必要です。それは、今いる所にじっといて、そこで静かに聖霊を待つことです。

聖霊を待つとは、神様のお働きを、力を発揮して

下さることを待つことです。そのためには、私たちは、自分の活動、自分の力で何かをしていこうとすることを止め、心を静めて神様に思いを向けなければなりません。それは祈ることです。

弟子たちは、一つの部屋に集まり、心を合わせて熱心に祈りました。そのような共に集まる祈りが、聖霊が降ることへの準備となりました。

使徒の務めは、主イエスの復活の証人であることです。復活の証人であるためには、十字架につけられる前の、地上を歩まれた主イエスのことをよく知っていなければなりません。

主イエスがこんなことを語られた、こんなみ業をなさったことを証言するためよりも、主イエスの復活を確かに証言するためなのです。使徒たちの証言の中心は、十字架につけられて殺され、葬られた主イエスが復活されたことです。

これを証言する「主の復活の証人」として、ユダに代わる新たな一人が選出されます。聖書ではくじ引きは、神様のみ心を求める方法の一つです。既に定められている神様のみ心を知るためにくじ引きがなされたのです。くじはマティアに当たりました。主のみ心はそこにあったのです。

このように、主の復活の証人としての十二人の使徒が揃いました。聖霊が降ることを待つ準備、伝道の開始への準備がこうして整ったのです。

この準備において人々がしたことは、祈ることと、くじを引いてみ心を求めることだけです。聖霊のお働きを受け、主の証人として立てられていくために人間のなすべき準備は、祈ることと、み心を尋ね求めることだけなのです。このことが大切なのです。